平成20年度水産研究所研究評価委員会（事後）評価結果

１．日　時：平成２１年３月６日（金）　１０：００～１４：００

２．評価対象研究課題と評価結果

評価項目 / 評価対象研究課題	目標の達成度				技術の発展性			技術移転・普及性の具体性			今後の研究方向		
	A	B	C	D	1	2	3	1	2	3	1	2	3
アワビ類の資源増大技術開発調査事業		4			4			1	2	3	3	3	
魚類養殖試験		1	3			4		1	1	2	2	3	

注）表中の数字は研究評価委員4名の評価結果（人数）

「技術移転・普及性の具体性」及び「今後の研究方向」の項目については複数回答者有り

【目標の達成度】
- A：目標以上達成
- B：ほぼ目標通り
- C：一部不十分
- D：不十分

【技術の発展性】
- 1：課題全体としての発展性あり
- 2：一部の中小課題について発展性あり
- 3：発展性は少ない

【技術移転・普及性の具体性】
- 1：技術移転の可能性あり
- 2：製品化・普及への具体性あり
- 3：技術情報として有効

【今後の研究方向】
- 1：新規課題として未完成技術の開発を図る
- 2：未達成課題については継続して完成させる
- 3：課題を終了する

３．評価結果のまとめ

（１）目標の達成度

「アワビ類の資源増大技術開発調査事業」については、“ほぼ目標通り達成”、「魚類養殖試験」については、“一部不十分”との全体評価を頂いた。

（２）技術の発展性

「アワビ類の資源増大技術開発調査事業」については、“課題全体としての発展性あり”、「魚類養殖試験」については、“一部の中小課題で発展性あり”との全体評価を頂いた。

（３）技術移転・普及性の具体性及び今後の研究方向

「アワビ類の資源増大技術開発調査事業」については、“技術普及の具体性や可能性がある”、“普及のため成果に基づく放流マニュアルを作成し、漁業現場に提供すべきである”、“今後も研究を継続し、残された課題等の解決を図り、高い効果が得られる放流技術を確立してほしい”等の意見を頂いた。

「魚類養殖試験」については、“研究を通じて有効な技術情報が得られた”、“技術普及の具体性や可能性がある”との評価を頂いた一方で、“マダイの生産コスト削減やクエの海面養殖を実現させるため、未達成課題について継続して取り組むべき”、“継続して研究を行うに当たり、漁業者や市場のニーズを加味した重点設定が必要”、といった有益な意見を頂いた。今後の研究方向を検討する際の判断材料としたい。